



# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□下□

## 古い物を意識

四角い額縁の中にとらわれない衝立や屏風に組み込まれた新しい感覚の作風は、これ

にとらわれないものだった。そのことに目を向けて、創作活動を続けています」という。

作品は、古典と現代の感覚が交錯するかのよう繊細な

## 地方でも道ある

「地方だからってあきらめ

# 古典と現代 交錯する光

阿部 啓明さん (40)  
(釧路市)

平面造形作家

までの概念を打ち破った新しい可能性を感じさせる。

だが本人は「逆に自分は古い物に意識を向けている。かつて日本画は寺院の障壁画や天井画のように、四角い画面

光を放っている。現代の家屋の中にあつては、玄関や居室に飾ることのできる絵画として個展でも注目を浴びている。

釧路湖陵高校時代から彫塑の中江紀洋氏を師と仰ぎ、1

ない。芸大、美大への道はここにある」と、地元の高校生や美術系大学へ進学を希望する受験生の指導に当たる。その成果は確実に上がり、このアトリ工から東京芸大、多摩美、武蔵野美、東京造形大学など、名だたる美術大学に進学している。

「高校を卒業して上京したときに、2年あれば追いつけるのではないかと思つて親に頼み込んだ。地方であっても、指導してくれる人がいればきつと希望はかなう」と、かつて恩師からアドバイスを受けた思いを胸に、今は若い感性の受験生たちに情熱のこもつた指導を続けている。

## 額縁にとらわれず

1999年ミヤタ画廊で個展開催。VOC A展「現代美術の展望―新しい平面の作家たち」に選出される。今年は釧路市立美術館で門屋武史氏、高橋潤氏、向中野るみ子氏の若手アーティストで4人展を開催。好評を博している。

蔵野美、東京造形大学など、名だたる美術大学に進学している。「高校を卒業して上京したときに、2年あれば追いつけるのではないかと思つて親に頼み込んだ。地方であっても、指導してくれる人がいればきつと希望はかなう」と、かつて恩師からアドバイスを受けた思いを胸に、今は若い感性の受験生たちに情熱のこもつた指導を続けている。

1999年ミヤタ画廊で個展開催。VOC A展「現代美術の展望―新しい平面の作家たち」に選出される。今年は釧路市立美術館で門屋武史氏、高橋潤氏、向中野るみ子氏の若手アーティストで4人展を開催。好評を博している。

蔵野美、東京造形大学など、名だたる美術大学に進学している。「高校を卒業して上京したときに、2年あれば追いつけるのではないかと思つて親に頼み込んだ。地方であっても、指導してくれる人がいればきつと希望はかなう」と、かつて恩師からアドバイスを受けた思いを胸に、今は若い感性の受験生たちに情熱のこもつた指導を続けている。